



「全曹青広報誌のあゆみ」

副会長 田ノ口 太悟たのくち たいご

全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）は発足当初より広報誌を発行しております。本年二月で記念すべき二百号を迎えることになり、今回はこれまでの広報誌のあゆみを振り返りたいと思います。

昭和五十年十一月十二日に『曹青通信』として創刊されたのが、全曹青広報誌の始まりです。現在の広報誌『SOUSEI』はカラー印刷の冊子ですが、『曹青通信』は白黒印刷のタブロイド判でした。創刊号と第二号には、昭和五十年十一月に行われた曹洞宗青年会発起人総会及び同結成大会の様子が掲載されています。ソートービルで行われた発起人



当時会長として石附周行禅師も広報誌に執筆

たことなどが、書き手の興奮が伝わるような筆致で描かれています。

初期の『曹青通信』を読むと、草創期の全曹青が設立理念に即した会のあり方を模索していたことが分かります。第二期全曹青会長であられた大本山總持寺・石附周行禅師さまは、『曹青通信』第五号・第七号で「曹洞宗の出家教団から教化教団への変化」「禅のつどい運動」によって坐禅を中心に据えた青少年教化を行うことにより、宗門の出家教団としての側面と教化教団としての側面を一つの運動展開の中に集約することができた」と記され、全曹青の設立理念が宗門の教えを促進し得るもので

総会には実に百八十三名が参加し、議場は立錐の余地もないほどであった



広報誌『SOUSEI』第二百零号 表紙

あることが述べられています。これは現在の全曹青においても共通する認識です。

全曹青は様々な教化事業を行い、広報誌もそれを伝えるために形式を変えながら発行されてきました。平成九年頃より第三種郵便物の認可を検討し、第百号より誌名を『そうせい』と改め、全寺院への発送となり

成二十三年にはより多

くの方に興味を持って見ていただけるよう誌面をフルカラーにし、現在に至っています。

広報誌の内容を振り返る中で目立つのは、

ます。平成十二年に第三種郵便物として認可されました。現在の郵送方法は変更されていますが、第三種郵便物の認可を継続しており、改めています。

平成二十一年には誌名を『そうせい』とし、以降アルファベットのタイトルが定着いたしました。平成二十二年には誌名を『SOUSEI』と改め、全寺院への発送方法を変更されていますが、第三種郵便物の認可を継続しております。また、寺院で様々な事業を展開する「テラカツ」の広がりも見過ごせません。二月発行の第二百零号では、これらをテーマに特集した当時と関わりのある方に、改めてインタビューさせていたただいております。また、記念としてAR（拡張現実）を用いた表紙にも取り組んでおります。ぜひご一読ください。



●執筆者プロフィール
副会長 田ノ口太悟
福岡県曹洞宗青年会所属